

「斜面災害の実態と対応」など

## 防災・減災テーマに技術懇話会

### 日本技術士会佐賀県支部

公益社団法人日本技術士会佐賀県支部（56人、宮副一之支部長）は5月30日、佐賀市の佐賀城本丸歴史館で技術懇話会を行った。

開会に際し宮副支部長が「今回も防災、減災をテーマに講師をお招きしました。矢ヶ部秀美氏には斜面災害の

実態と対応、竹下泰彦氏には特異な有明海と干潟について話していただきます」と挨拶。

「支部では今年度も統括本部や九州本部の事業計画との調整を図り、国土交通省、佐賀大学、佐賀県、佐賀市内市町、（一社）佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会、（公財）佐賀県建設技術支援機構、（一社）佐賀県建設業協会、軟弱地盤研究会、特定非営利活動法人技術交流フォーラム、木材利用研究会などと連携し、活動して

いきます」と話し、会員の協力を求めた。

日本技術士会九州本部防災委員会委員長の矢ヶ部氏は集中豪雨や斜面災害の発生の周期性に焦点を当て、どのような減災・防災の対応を図るべきかに言及。▽地山の風化形態と斜面崩壊のメカニズム▽広島豪雨災害の調査結果報告（技術士会中国本部主催の災害調査団）▽土石流の形態▽花崗岩地帯での土砂災害▽斜面災害発生時の周期性▽花崗岩分布地域での土砂災害リスクの増大について説明し「土砂災害を繰り返さないため、継続的に地質的素因について調査検討を継続的に行っていくましよう」とまとめた。



続いて竹下氏が有明海の歴史や特徴を紹介し、環境問題に取り組む姿勢を伝授した。

終了後は会場をホテルニューオータニ佐賀に移し、交流会を行った。



佐賀城本丸歴史館で行なわれた技術懇話会のようす